

# 日本墓石店100選の旅 in 岡崎



## 日本墓石店百選会報



▲小便小僧  
ものすごい勢いです。なんと、30mも放水します！  
日本TVにて放送されました！<2013年7月11日・ビックリしちゃった新記録にて紹介。>  
(施工：(有)坂口石材工芸／茨城県)

### 岡崎ストーンフェア2013に行ってきました！

こんにちは。日本墓石店100選の菊池です。秋も気づけば晩秋となり、そろそろ冬の足音が聞こえてくるようですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。この度も優良な墓石店の方にお会いするため、愛知県岡崎に行ってきました。岡崎は香川(庵治石)、茨城(眞壁石)と並ぶ日本の花崗岩三大産地です。そこで、今回で22回目を迎える「岡崎ストーンフェア」へ主催の岡崎石製品協同組合連合会/10月19日(土)・20日(日)へ取材に行ってきました。こちらのフェアでは、岡崎の伝統工芸品である和灯笼、彫刻品をはじめ、墓石、モニュメント、石あかり、石を活用したアイデア製品など出展数は約2000点にも及びます。岡崎産地以外にも多数出展し、石材を取り巻く最新の機器や情報・サービスを体感できる数少ないイベントです。来場者を飽きさせない趣向が随時見られました。



▲石の「珍百影」岡崎市観光協会賞  
このように自然に2種類の石材が一つ塊として採掘されることは非常に珍しいこと。墓石には使えないのでオブジェを作成。球体部分はモーターで動く仕掛けになっています。  
(施工：(有)谷中石材／岡崎氏)

【岡崎ならではの手加工品】  
岡崎ストーンフェアの最大の見所といえるのは、何といても各店に並ぶ多彩な国産石製品の数々です。これだけ豊富な種類の手加工製品が並ぶのは職人の街、岡崎ならではの特徴です。各石材店ならではの強みや趣向を活かした製品は非常に興味深いものですね。一般の方にとっても、業者の方に出会える貴重な機会です。



▲【岡崎の産地職人による石割り実演】  
普段は目の前で見る事の出来ない職人の技をまのあたりに。大人も子供も食い入るように石が割れる瞬間を見届けました。

第04号  
発行  
株式会社ギブリー



【出展している岡崎の職人の方へインタビュー】  
(菊)産地ということ、地域柄、やっぱり国産石材がやすいのでしょうか？(職)多少はあるかもしれませんが、福島・愛媛も出ます。全体的に、最近国産石材が伸びていますよ。(菊)国産の中でもよく使われる石種があれば教えて下さい。(職)「大入石」って石が高くない、地元の石だね。(菊)お客様の墓石購入価格は平均すると、どのくらいでしょうか？(職)愛知県は平均100万もかかりませんよ。(菊)岡崎は和型のお墓が多いように感じますね。(職)愛知県はまだ古き良きものを重んじる意識が根強い街が増えていますね。洋型を好まれる方が多いという意識になることが必要だと思えます。例えば、家紋の入っている洋墓と入っていないものとは、違う認識ですね。同じ洋墓でも全く違うものになります。厳かな雰囲気がないとね。(菊)なるほど。(職)岡崎は産地ということもあり、職人を育成学校もあり、全国の職人志望者が岡崎に修行に来ます。また、全国大会、世界大会を目指す者には国からのサポート体制も整っています。(菊)どうも有難うございました。岡崎は年長者が若者へと伝統技術を継承する、活気あふれる街ですね。

【大震災でも倒れない、耐震施工のエキスパート】  
今月ご紹介するのは、創業119年の実績を持ち、宮城県塩竈市にて活躍されている志賀石材店の志賀巧基(こうき)様です。  
震災の影響もあり、耐震施工のニーズはますます高まっています。その中で、志賀石材店では、すべてのお墓に耐震工事が標準装備され、震度6度強の地震で倒れた際には、全額保証をするなど、絶対の自信をお持ちです。震災以降は年に2〜3回、国産墓石での実績も多いため、宮城県内からご相談頂くことも多く、もちろん、宮城県を代表する「伊達冠石」でも対応は可能とのこと。それでは、最後に志賀様の理念を掲載させていただきます。  
「人は石を研磨していくことで、新しい生命のぬくもりを灯す造景を創りだし、そこに永遠の時を感じ、慈しみの心を育ててきました。志賀石材店ではこのような心を大切に、長く愛着をもってお参り出来るお墓を建てていただけるよう、ご提案しております。」



▲宮城県・塩竈市を拠点にご対応可能。震災を乗り越え、強固な耐震施工をご提案。

【新規加入墓石店紹介】  
有限会社志賀石材  
専務取締役 志賀巧基様

最近、中村個人でブログを始めました。ズバリ、テーマは『供養を考えている人のための”お墓を建てましょう”ブログ』です。特に関東では納骨堂や樹木葬、最近では宇宙葬(!)というように、供養のかたちも多岐に渡り、また需要として大きく伸びていますね。しかしそのような時代背景の中でも、日本古来から続く先祖供養のかたちとしてのお墓のことを、供養を考えている方に1人でも多く知っていただきたいと思い、ブログ開設に取り掛かりました。選択肢が広がることは良いことですが、お墓のことを考えないという選択肢は作ってはいけません。

編集後記  
記：中村 裕貴  
次は皆さんの町へ！！  
今後の100選の旅スケジュール  
中村：11/1・2 茨城県笠間市に行ってきます！